

## 新疆近代政治史（一九一一—四九）資料（一）

鯉 濱 信 一  
李 延 江

本稿は「新疆近代政治史研究」のテーマのもとに故木村肥佐生教授を研究代表（日本側）として二年前から始めた日中共同研究の中間報告の一部で、木村教授が収集した資料を整理したものである。一九八八年八月、同テーマのもとにアジア大学アジア研究所と中国中央民族学院民族研究所との間で共同研究として合意書を交換したもので、本研究の目的について木村教授は次のように述べている。

「新疆は中国最西端に位置する中国最大の省で、面積は九一万平方キロ（日本の二倍以上の広さ）、インド、アフガニスタン、ソ連、モンゴル人民共和国に隣接する。新疆はユーラシア大陸のほぼ中央に位置し、古来東西交渉史の中で最も重要な役割を果たし、その研究は世界的に盛んである。ただ日本においては、従来、新疆研究は大部分古代シルクロード関連のものであった。

一九一一年清朝崩壊後、この辺境地区に中国中央の威令はまったく届かず、地方軍閥の独裁が三〇年にもおよんだ。この期間、新疆はロシア、ソ連、英国、中国、日本等国际諸勢力の争いの場となってきた。ソ連は新疆軍閥を抱き込んで各種権益を獲得し、軍隊を駐屯させ、英ソは領事館を開き、日本もまた一時期、合法的に陸軍特務機関を開設した。一方、新疆省内のウイグル族は独立の為、絶えず反乱を起こし、一時は東トルスタン共和国を樹立した。このような新疆の状況は断片的

に伝えられていただけで、日本においては現在に至るまで総合的な研究は皆無であった。

中国側としても、軍閥史を除き、新疆の総合的近代史は存在していなかった。しかし、近年、軍閥は従来、全面的な非難と糾弾の対象であったが、中央の威令の及ばなかった期間を通じて、外国諸勢力の侵略、圧力によく対処して、辺境における国家権益を守り、結果的に新疆が中国側に残る要因をつくったことを評価し、中国学会に軍閥の罪は罪、功は功として見直し、総合的な新疆近代史を書き直そうという新しい機運が生じてきた。

(中略)

研究の目的は歴史の空白部分と言われてきた新疆軍閥三代(一九一二—一九四九)三〇余年の期間に光を当て、その功罪を抽出して見直すと共に、まだ解明されていない新疆における外国諸勢力の動き、駆引きを、外交文書などの第一次資料を駆使して明らかにしたいと考えている」(計画申請書より)。

中国人研究者とともに新疆問題を研究することは木村先生にとっては長年の夢でもあった。われわれは同じアジア問題研究者として、また後輩として木村先生の研究のお手伝いの仕事をしながら、この新疆に関する共同研究の成果を楽しみに待っていた。しかし、新疆調査への途次、一九八九年十月九日、北京で病氣に見舞われ、木村先生は帰らぬ人となった。悔んでも悔みきれず、寂しいかぎりであった。

このような経緯で、共同研究は一時中断したままであった。その後、仕事は再開し、つい去年までにできあがったのが本稿である。ここに謹んで木村先生を追悼するとともに、本資料目録が多少なりとも日中両国の新疆研究者の研究の手がかりになることを祈るものである。

一、新疆政況及び事情關係雜件（外務省資料）

一、新疆省における「ソビエット」露国銀行の設立に関する件

幣原外務大臣宛 在支那特命全權大使芳沢謙吉、大正一五年五月二六日 公第六一八号  
北京政府は、楊增新の電請に対し新疆にソビエット銀行の開設を許可せぬ旨訓令。

二、新疆と「ソビエット」聯邦との外交關係に関する報告

幣原外務大臣宛 在ノヴォシビルスク領事島田滋、大正一五年五月三一日 公第四七号  
大正一一—一三年の間の外交關係

三、新疆官吏の当地通過に関する報告

幣原外務大臣宛 在ノヴォシビルスク領事島田滋、大正一五年一月一六日 公第三三〇号

四、新疆迪化及チュグチャク間自動車交通開始に関する件

田中義一外務大臣宛 在ノヴォシビルスク領事緒方整肅、昭和二年五月二七日 公第一五五号

五、ソビエット政府の滿蒙六大鉄道新計画

外務次官、関東軍參謀長、拓殖局長、その他宛 関東庁警務局長、昭和二年一〇月二七日 関機高収第二七  
四八五号

六、「新疆旗幟変更の真相」（日本語訳文）

田中義一外務大臣宛 在支那特命全權大使芳沢謙吉、昭和三年七月一三日 公第八二三号

新疆省政府の国民政府に対する服従表示の件（「京報」切り抜き、中国文）。

七、新疆督弁楊增新の暗殺説

田中義一外務大臣宛 在支那特命全權大使芳沢謙吉、昭和三年七月二日 公第八五七号

八、白崇禧の新疆入り説（その一）

陸軍次官宛 北京公使館付武官、昭和三年一月六日 支大五四四号

九、白崇禧の新疆入り説（その二）

昭和三年一月七日 支第五四四号

一〇、白崇禧談話

田中義一外務大臣宛 在北京堀内代理公使、昭和三年一月二日 第一六〇一号

一一、新疆の政況

田中義一外務大臣宛 在滿州里領事田中文一郎、昭和四年三月二六日 公第七〇号

1. 新疆政権を全樹仁派掌握

2. ソ連邦勢力浸透

3. 一〇年来政費二四〇一万（年額）中央より新疆に支給されず

4. その他

一二、外国情報

幣原外務大臣宛 在北京堀内代理公使、昭和四年八月一四日 第九三二号

瑞典代理公使より瑞典新疆探検隊員への便宜供給方依頼。

一三、北京東方通信

大正一五年二月一〇日

中国側は新疆における露国紙幣の流通禁止を申し入れたるにカラハン大使はこれを拒否。

一四、副島次郎遺稿「甘肅新疆の旅」（一三回連載）

大正一五年大阪毎日新聞切り抜き

一五、ロシアの陰謀

大正一五年七月一〇日 アトバタイザー紙切り抜き

ロシア政府は新疆を第二のモンゴルにセント計画

一六、迪化城と外蒙古、新疆間の貿易状況（資料）

情報部第一課（北京経済週刊一四九号）

1. 專業店舗一〇軒 取引物質品目 重量
2. 貨物運送契約方法 運賃 安全保証経費
3. 迪化城より新疆奇台までの行程七〇日間と沿道状況
4. 迪化城と外蒙古間の貿易專業店舗 取り引き状況各種
5. 外蒙古貿易経営者連合会議の模様（外蒙古側官憲に対する不満、各種税徴収、変乱後の借款踏み倒し、損失蒙銀為替料）

6. 対新疆蒙古雜貨取り引き量（民国七——三年—羊、馬、駱駝輸入数）

一七、ロシアの新疆侵略説

天津益世報（民国一六、八、三〇）情報部第一課 昭和二年九月六日

1. 「ソビエツト」聯邦新疆を侵略す、総領事館二、領事館二新設

2. 外蒙古同様新疆を独立せんとす

一八、新疆情報

田中義一外務大臣宛 在滿州里領事田中文一郎、昭和二年九月二二日 公第一九〇号

1. トルキスタン、シベリア鉄道と新疆との関係

2. トルキスタン、シベリア鉄道の価値

3. 新疆の概況

4. 露国と新疆との関係

5. トルキスタン、シベリア鉄道の新疆に対する影響

一九、楊增新南方派への参加説

「日日新聞」切り抜き、昭和七年七月二日

二〇、楊增新暗殺詳報中外

新聞切り抜き、昭和七年七月一七日

二一、楊增新暗殺

「万朝新聞」切り抜き、昭和七年七月二〇日

二二、総合報告

廣田弘毅外務大臣宛 在アフガニスタン特命全權大使北田正元、昭和十一年一月二日 公機密第二号

当国内の英ソ両国情報機関の活動並びに当館の情報事務に関する件

1. 新疆及びソ連領トルスキタンの直接情報

2. 当国に於ける英蘇両国の情報機関

3. 当館の情報事務

4. 印度に於ける情報

二三、英国公使談話

廣田弘毅外務大臣宛 在アフガニスタン特命全權大使北田正元、昭和十一年一月八日 第四号の一

新疆、インド間通商の復活交渉について

二四、新疆情報

廣田弘毅外務大臣宛 在アフガニスタン特命全權大使北田正元、昭和十一年一月八日 第四号の二

東罕軍は使を派しソ連側との平和条件の承認を求める件

二五、インド情報

廣田弘毅外務大臣宛 在孟買領事石川実、昭和十一年一月一〇日 普通第一五号

インド新疆通商交渉に関する新聞報道の件

二六、「タイムズ」記事

廣田弘毅外務大臣宛 在中華民國特命全權大使有吉明、昭和二十一年一月一〇日 大第一八号

「タイチマン」のギルギット到着に関する件

1. 在支英國大使館參事官自動車にて北平、迪化、ギルギット（インド）間五五日間
2. 新疆視察旅行（大公報切抜き）新疆に於けるソビエト勢力（タイムズ記事要項）参考資料
3. 新疆及び外蒙古におけるソ連及び英國領事館所在地と領事名

二七、「ソビエトと新疆」

廣田弘毅外務大臣宛 天津川越総領事、昭和二十一年一月一日 第九号

北京天津タイムズ紙社説新疆における露国の活動に關し注意を喚起（英文社説切抜き）。

二八、新疆に關する電信写送付の件

在支、在滿大使、その他宛 廣田弘毅外務大臣、昭和二十一年一月一〇日 機密合第四五号

（昭和二十一年一月八日付カブール発大臣宛電報第四号写）

二九、新疆とソ連の借款説

參謀次長宛 天津軍參謀長、昭和二十一年一月一日

新疆省政府はソ連政府と借款五千万元を契約し、軍事、政治、經濟条約を締結説。

三〇、「エミール・ホタン」談話

廣田弘毅外務大臣宛 カブール北田正元公使、昭和二十一年一月一六日発 第七号の一（極密）



往復電第一〇五号 朝倉を介し極密来訪談話（新疆各地の軍事情勢）。

三一、「エミール・ホタン」談話

廣田弘毅外務大臣宛 カブル北田正元公使、昭和十一年一月二六日 第七号の二（極密）  
新疆の対日感情好、日本に外交上の支援と武器供給を期待。

三二、額済納方面の近状

廣田弘毅外務大臣宛 在張家口領事代理中根直介、昭和十一年二月二〇日 機密第二七号  
同地に滞在せる邦人大迫武夫談（新疆旅行者）。

三三、新疆に関する電信写送付の件

在支、在滿大使その他宛 廣田弘毅外務大臣、昭和十一年一月二八日 機密合第八一号  
（昭和十一年一月二六日付カブル発本大臣宛電報第七号写）

三四、南疆に於ける反蘇回教軍諸派の動向

廣田弘毅外務大臣宛 在アフガニスタン特命全權大使北田正元、昭和十一年一月二五日 機密第二九号  
英印側の「ホタン」に対する態度並びに新疆迪化政權との交渉に関する件。

三五、新疆省事情並びに蘇支関係

小柳領事より、昭和十一年一月  
三六、電信写送付の件

在アフガニスタン特命全權大使北田正元宛 廣田弘毅外務大臣、昭和十一年一月二九日 亜一機密第二号

貴電第一〇号に関し、並一機密合第一七四七号再送付

三七、盛世才の来ソ説

廣田弘毅大臣宛 在ソ大使発、第四七二号

ソ連側が盛世才の来ソ説を強く否定。

三八、外国情報

廣田弘毅外務大臣宛 在アフガニスタン特命全權大使、昭和十一年一月二六日 公機密第二五号

アフガニスタン陸軍大臣渡欧の件。

三九、「新疆に於ける競争」

廣田弘毅外務大臣宛 在英国臨時代理大使藤井啓之助、昭和十一年一月三〇日 普通第五四号

ピーター・フレミング氏の記事要約

1. 英国インドにとって新疆の重要性
2. ソ連による新疆支配の脅威 ソ連にとって馬仲英の利用価値
3. 盛世才のソ連観

四〇、ソ連関係情報

後藤文夫内務大臣、廣田弘毅外務大臣、その他宛 長崎県知事田中広太郎、昭和十一年一月七日 第六号  
在ソ連ノウォシビルスタ中国総領事寄港上海向け出港の件。

四一、ソ連と新疆省の密約締結説に関する件

廣田弘毅外務大臣宛 在天津総領事川越茂

別紙 新ソ条約一〇条

四二、新聞記事

廣田弘毅外務大臣宛 藤井在英国臨時代理大使宛 在アフガニスタン特命全權大使北田正元

昭和十一年二月三日 公普通第三二号

ロンドン・タイムス掲載の新疆に関するフレミングの実記送付方依頼の件。

四三、新疆情報

参謀次長宛 天津軍参謀長、昭和十一年二月四日（極密）

1. 最近に於けるソ連邦の対支工作に關し、当部の総合的な觀察
2. ソ連の対支工作の重点は新疆より北支に移る、赤化工作積極化
3. 对綏遠工作活発化

四四、馬仲英に關する情報

廣田弘毅外務大臣宛 在北京武藤書記官、昭和十一年二月七日 第七号

新疆第三六師師長突如来平の説及び秘書とするものの暗躍。

四五、タイムズ記事要旨

廣田弘毅外務大臣宛 在英国臨時代理大使藤井啓之助、昭和十一年二月一〇日 普通第八九号

サー・エリック・タイヒマンの旅行に關する記事報告の件（一月三〇日付）。

四六、支那における勢力範囲に関する英蘇間了解成立説の件

廣田弘毅外務大臣宛 在中華民國臨時時代理大使若杉要、昭和十一年二月二日 機密第九九号

ソ連は新疆西南部における活動を中止。

四七、英国議會支那問題質疑応答

廣田弘毅外務大臣宛 在ロンドン藤井臨時時代理大使、昭和十一年二月四日 第七四号

タイヒマンの新疆旅行目的に關し、外相答弁。

四八、馬仲英に関する情報

參謀次長宛 北平補佐官、昭和十一年二月六日（機密）

新疆省馬仲英の北平來訪説は虚報、日本側が馬仲英を利用しありとの流言支那側に流布。

四九、タイヒマンの新疆旅行について

廣田弘毅外務大臣宛 在中華民國臨時時代理大使若杉要、昭和十一年二月二日 大第一一七号

タイヒマンの新疆旅行に関するタイムス記事送付の件。

五〇、新疆事情に関する件

廣田弘毅外務大臣宛 在中華民國臨時時代理大使若杉要、昭和十一年二月二日 機密大第一二〇号

1. 迪化來信

2. ソ連人顧問、盛世才軍のソ連化、その他

五一、当国内新疆國境への電話線開設に関する件

廣田弘毅外務大臣宛 在アフガニスタン特命全權大使北田正元、当国内新疆国境への電話線開設に関する件。  
五二、ソ連の最近の情報

廣田弘毅外務大臣宛 在アフガニスタン特命全權大使北田正元、昭和二年二月二五日 第一八号（極密）

1. ソ連は新疆に於ける軍事力増強の人員を反日満支那兵に求む

2. 満州国兵脱出の原因

3. ソ連側との連絡の有無

五三、ソ連最近の情報

廣田弘毅外務大臣宛 在アフガニスタン特命全權大使北田正元、昭和二年二月二六日 第一九号の一（極密）

1. 新疆東軍、罕和闐と提携、反ソ連行動準備

2. ソ連支那側兵をカジガルに集中

五四、英国情報

廣田弘毅外務大臣宛 在アフガニスタン特命全權大使北田正元、昭和二年二月二六日 第一九号の二（極密）

英国はまだ新疆東、罕和闐いずれにも援助を与えず。

五五、軍閥係情報

廣田弘毅外務大臣宛 在新京南大使、昭和二年二月二八日 第一六五号（部外絶対極密）

軍の情報によれば支那奥地、辺境調査従事者として

1. 目下寧夏 甘肅、青海經由西蔵へ

2. 大迫武夫新疆へ

3. 山本光治ら新疆へ向かえ

#### 五六、総合報告

廣田弘毅外務大臣宛 在ノヴォオ小柳領事、昭和十一年三月一日 第七号

1. 当地支那総領事来訪 岡田首相死去（二、二六）に哀悼の意を表示

2. 新疆のソ連勢力増大露骨化、外国人の入新は危険困難なり

#### 五七、新疆関係電信写送付の件

在支、在滿大使その他宛 廣田弘毅外務大臣、昭和十一年三月二日 亜一機密合第二九八号

（昭和十一年二月二六日カブール発本大臣宛電報第一九号写）

#### 五八、新疆に関する電信写送付の件

在支、在滿大使その他宛 廣田弘毅外務大臣、昭和十一年三月二日 亜一機密合第二九九号

新疆に関する電信写送付の件（昭和十一年二月二五日カブール発本大臣宛電報第一八号写）。

#### 五九、新疆関係電信写送付の件

在支那、在滿大使その他宛 廣田弘毅外務大臣、昭和十一年三月三日 亜機密号第三〇五号

疆関係電信写送付の件（昭和十一年三月一日ノヴォオ発本大臣宛電報道第七号写）。

六〇、新疆関係電信写送付の件

在支那、在滿大使その他宛 廣田弘毅外務大臣、昭和十一年三月六日 亜一機密号第三二二号  
新疆関係電信写送付の件（昭和十一年三月六日ノヴォ彥本大臣宛電報第八号写）。

六一、ソ連旅行報告

廣田弘毅外務大臣宛 在ノヴォ小柳領事、昭和十一年三月四日 第八号の一

在チタ滿州国領事館津田副領事らソ連中央アジア視察旅行成果報告。

六二、新疆方面との取り引き

廣田弘毅外務大臣宛 小柳領事、昭和十一年三月四日 第八号の二

新疆方面との取り引き。

六三、インド新疆間貿易に関する件

廣田弘毅外務大臣宛 在英国臨時代理大使藤井啓之助、昭和十一年三月一日 普通第一八九号

インド新疆間貿易に関する件

六四、新聞記事

廣田弘毅外務大臣宛 在アフガニスタン特命全權大使北田正元、昭和十一年三月二三日 公普通第六七号

「ロンドンタイムズ」掲載の「フレミング」氏新疆事情記事に関する件。

六五、新聞記事

在英国臨時代理大使藤井啓之助宛 在アフガニスタン特命全權大使北田正元、昭和十一年三月二三日 公普

通第四五号

「ロンドンタイムス」に掲載の「フレミング」氏新疆事情記事に関する件。

六六、英印は我对北支、外蒙古活動に対する危虞

廣田弘毅外務大臣宛 在アフガニスタン特命全權大使北田正元、昭和十一年三月三十一日 第二八号の一（極密）

英印は我对北支、外蒙古活動に対する危虞。

六七、英印は我对北支、外蒙古活動に対する危虞

廣田弘毅外務対人宛 在アフガニスタン特命全權大使北田正元、昭和十一年三月三十一日 第二八号の二（極密）

六八、英国情報

廣田弘毅外務大臣宛 在英臨時代理大使藤井啓之助、昭和十一年三月三十一日 普通第二三〇号  
外蒙古及び新疆方面に関する当国議會討議に関する件。

六九、新疆事情

廣田弘毅外務大臣宛 在中華民國臨時代理大使若杉要、昭和十一年三月三十一日 大第二〇二号  
新疆事情に関する件。

七〇、支ソ密約説

參謀次長宛 上海大使館付武官、昭和十一年四月一日



七一、ソ連情報

廣田弘毅外務大臣宛 在アフガニスタン特命全權大使北田正元、昭和十一年四月二日 第二九号  
当国外務大臣はモスクワ訪問中蘇は不侵略条約更新の公文に調印。

七二、新疆事情（一）

参謀次長宛 漢口渡中佐、昭和十一年四月二日

昨年末よりソ連支那政府間にて締結に努めつつある密約の大綱。

七三、新疆事情に関する指示

在支若杉臨時代理大使宛 廣田弘毅外務大臣、昭和十一年四月一日 合第四二二号

七四、新疆事情に関する指示

在支若杉臨時代理大使宛 有田八郎外務大臣、昭和十一年四月六日 機密合第四三九号

七五、「テウフィック・シエリフバシ」会谈要綱

昭和十一年四月七日

七六、南京政府の許可について

有田八郎外務大臣宛 在アフガニスタン特命全權大使北田正元、昭和十一年四月一〇日 第三三号（極密）

七七、新疆省政治經濟事情

鐵道省上海弁事処津田正夫 調査資料第一一二三号

七八、新疆長途自動車会社の概況報告

有田八郎外務大臣宛 在張家口領事代理中根直介、昭和十一年四月一五日 機密第一〇三号

七九、新疆事情

有田八郎外務大臣宛 在アフガニスタン特命全權大使北田正元、昭和十一年五月四日 公機密第一〇三号

「アミールホタン」手記「新疆事情送付の件」

八〇、新疆事情（その一）

外務通訳生朝倉延寿訳

「アミールホタン」手記東「トルキスタン」新疆事情（その一）

八一、新疆及びその重要問題に関する件（その五）

有田八郎外務大臣宛 在アフガニスタン特命全權大使北田正元、昭和十一年五月四日 公機密第一〇四号

八二、新疆情報

有田八郎外務大臣宛 在アフガニスタン特命全權大使北田正元、昭和十一年五月八日 第四二号の一（極

密）

八三、新疆事情

有田八郎外務大臣宛 在アフガニスタン特命全權大使北田正元、昭和十一年五月 第四二号の二（極密）

ソ連側は国境にて羊五六万頭を盗みたる件。

八四、新疆情報

昭和十一年五月一日

調査資料第一三六七号

八五、英国議会情報

有田八郎外務大臣宛 在英臨時代理大使藤井啓之助、昭和十一年五月十四日 普通第三三六号

極東問題に関する議会に質問に付き報告の件。

八六、新疆における邦人共産主義者の活動

有田八郎外務大臣宛 在アフガニスタン特命全權大使北田正元、昭和十一年五月十五日 公機密第一二五号

「新疆「カシユカル」における邦人共産主義者に関する件。

八七、パリ情報

有田八郎外務大臣宛 在アフガニスタン特命全權大使北田正元、昭和十一年五月十五日 公機密第一二八号

在パリ「チョコカイ・オグリ」氏との連絡に関する件。

八八、支那及極東における対日英蘇共同戦線結成に関する交渉の情報

参謀次長宛 上海大使館付武官、昭和十一年五月十九日

八九、新聞記事

有田八郎外務大臣宛 在シムラ総領事米沢菊二、昭和十一年五月二十四日 普通第一九八号

「カシカル」地方政府創立記念博覧会と新疆政情に関する新聞報道の件。

九〇、新疆情報

有田八郎外務大臣宛 在アフガニスタン特命全權大使北田正元、昭和十一年五月二十九日 第五〇号

九一、新疆情報

有田八郎外務大臣宛 在アフガニスタン特命全權大使北田正元、昭和十一年五月三十一日 公機密第一四六号  
最近の新疆情況に関する件。

九二、新聞記事

有田八郎外務大臣宛 在アフガニスタン特命全權大使北田正元、昭和十一年六月一日 公普通第一四七号  
新疆情報に関する当地「イスラ」紙記事訳報の件。

九三、ソ連情報

有田八郎外務大臣宛 在アフガニスタン特命全權大使北田正元、昭和十一年六月四日 第五四号  
英ソ連の勢力範囲確立、南新疆現地。

九四、綏遠新疆情報

有田八郎外務大臣宛 在張家口領事臨時代理中根直介、昭和十一年六月三日 機密第一九一号  
綏遠、新疆両省間に於ける交通狀況及び經濟關係に関する件

九五、新疆事情

有田八郎外務大臣宛 在滿州特命全權大使植田謙吉、昭和十一年六月九日 公機密第九五六号  
新疆事情に関する件。

九六、新疆情報

外交部政務司長神吉正一宛、康德三年五月一八日 新聞密第一号

新疆入及その他実情調査に関する報告の件。

九七、「一九三三年の第一革命以降に於ける新疆の変遷」

有田八郎外務大臣宛 在アフガニスタン特命全權大使北田正元、昭和二年六月一日 公機密第一七一号

「アミール・ホタン」手記「一九三三年の第一革命以降に於ける新疆の変遷」送付の件（その一）

1. ホタン独立の経緯

2. カシガル政権樹立の経過

九八、「一九三三年第一革命以降に於ける新疆の変遷」續

有田八郎外務大臣宛 在アフガニスタン特命全權大使北田正元、昭和二年六月一日 公機密第一七五号

「アミール・ホタン」手記「一九三三年第一革命以降に於ける新疆の変遷」送付の件（その二）

3. 「ホジャニアス」及び馬仲英の出勤

4. 東罕軍の動静

5. 迪化城政府の状況

九九、新疆省の概況

支那駐屯軍司令部より配布、昭和二年六月一日 天調第六四号

新疆省の概況（兵要地理資源資料）

1. 自然と人

2. 資源

3. 交通

4. トルクシブ鉄道

5. 対外貿易

6. 財政と金融

7. 露国の新疆計略の史的考察

8. 近世における新疆政情

一〇〇、新疆状況

有田八郎外務大臣宛 在張家口中根領事代理、昭和十一年六月二日 第一三三号

1. 新疆省実地調査に関する件

2. 新疆長途自動車利用による潜入計画

一〇一、新疆情報

有田八郎外務大臣宛 在アフガニスタン特命全權大使北田正元、昭和十一年六月二四日 第六三号

当国総理大臣の談話内容として

1. 対日接近の意向、ソ連国内情勢不安

2. 英南新疆への武器供給の報

一〇二、新疆鉄道情報

参謀次長宛 上海大使館付武官、昭和十一年六月二七日 密電報

龍海線延長路線調査終了

1. 第一次計画は西安經由蘭州

2. 次に新疆經由ソ連鉄道に連絡

一〇三、新疆の重要情報

有田八郎外務大臣宛 在アフガニスタン特命全權大使北田正元、昭和十一年六月二十八日 公機密第一八三号。

新疆その他重要情報伝達先公使館に関する件

一〇四、ソ連情報

潮内務大臣、有田八郎外務大臣、警視総監その他宛 長崎県知事田中広太郎、昭和十一年六月二十九日

在モスクワ中国大使館付武官陸軍大佐 邓文儀寄港中異常。

一〇五、英国情報

有田八郎外務大臣宛 在英大使吉田茂、昭和十一年六月三〇日 普通第四四六号

英議会上院は「タイヒマン」報告の公表は国家利益に反すると結論。

一〇六、新疆事情

1. 康德三年五月調 新疆事情

朱炳、柯志敏 その他の口述による

甲 内政

イ 盛世才の政治に於ける位置と勢力

ロ 金馬両人の残党と勢力

ハ 現政権にかわるべき勢力の有無

ホ 南京政府と現政権との関係

ヘ 各民族の行動と現政権に対する見解

ト 民生の難易、その他

## 乙 外交

イ ソ連勢力の侵入程度及び顧問の実権とその位置と勢力

ロ ソ連の新彊省に於ける行動とその成功せし事実

ハ 人民の赤化程度

ニ ソ連新彊間に締結された条約

ホ 外蒙古及び唐奴烏梁海との国交及び経済関係

ヘ 英国の勢力

ト 各種族の日英露諸国に対する認識

チ 在留外人の数等の出入境取締り方法、その他

## 丙 軍事

イ 全省軍の数 配備武器

ロ ソ連駐屯郡の有無



ハ 省郡のソ連迪化状況及び軍需品の配給関係

ニ 入新旧東北軍の現状

ホ 軍用航空

丁 交通通信

イ 本人出入新の際の交通状態

ロ 支那本部との交通通信

ハ 外蒙古ソ連との交通通信、その他

戊 経済

イ 主要輸出品及び輸入刻

ロ ソ連利権 決定すべき事項

巳 決定すべき事項

イ 新疆より赤化勢力を駆逐する方法如何

ニ 新疆連絡者と通信方法

2. 外務省宛 在アフガニスタン日本帝国公使館

昭和十一年六月一二日 公普通第一六〇号

在独大使館へ新疆関係書籍購送方依頼の件

一〇七、「北疆からインドへ」

一九三五年一月一八日

「北疆からインドへ」ピータ・フレミングの旅行記（英文）。

一〇八、南京蒙古会議否認声明の件

幣原外務大臣宛 在張家口領事山崎誠一郎、昭和五年六月二三日 普通第一二五号

附青海蒙古代表団の南京會議反対声明。

一〇九、新疆の近況訳文の件

幣原外務大臣宛 在滿州里領事館事務代理豊原幸夫、昭和五年七月二二日 公第二六八号

今月二〇日黒竜江民報掲載記事について。

一一〇、ソ連の新疆進出に関する情報

幣原外務大臣宛 在モスクワ天羽代理大使、昭和五年一月四日 第六二七号

ニューヨーク「タイムス」特派員と二三の方面より得た情報によると最近中ソ外交官が接触し、鉄道、関税、

軍用道路などに関して協議、附計画の地図。

一一一、ソ連の新疆進出に関する件

在上海代理公使、在北平矢野参事官、在奉天、漢口、各総領事、在張家口、滿州里、在ノヴォ・シビルスク

各領事宛 幣原外務大臣、昭和五年一月四日 合第五一八号

附在モスクワ代理大使の電文。

一一二、仏國人の亜細亞探検に関する件

文部次官中川健蔵宛 外務次官永井松三、昭和六年一月九日 普通第七号  
附 在米大使の報告。

一一三、仏國人の亜細亞探検に関する件

幣原外務大臣宛 在米特命全權大使出淵勝次、昭和五年一月二一日 普通公第六六六号  
当地の地理学協会会長の発表によれば、仏國人三五名よる亜細亞探検隊を組織し、明春三月から新疆に出発、探検隊のメンバー、携帯用具など。

一一四、新疆政府の張家口、ウルムチ間連絡計画に関する件

幣原外務大臣宛 在中華民國日本公使館矢野真、昭和六年五月一三日 機密第四二四号  
当館の情報者によると新疆政府は張家口、ウルムチ間に自動車による貨物輸送を開始するために外国の宣教師による自動車の試走が完了。

一一五、新疆及蒙古事情に関する新聞記事訳文送付の件

幣原外務大臣宛 在中華民國日本公使館参事官矢野真、昭和六年五月二九日 公第四六六号  
今年二月一三日「大公報」所載「新疆と蒙古」なる記事要領を翻訳し送付

1. 新疆の状況

2. 蒙古の状況

一一六、新疆省政治社会概況に関する件

幣原外務大臣宛 在中華民國日本公使館参事官矢野真、

昭和六年六月四日 公第四八六号

昨年一月二八日と一九日の「華北日報」等に掲載された新疆政府顧問の談話要領

新疆省社会政治概況

1. 教育 2. 交通 3. 経済 4. 鉱産 5. 牧畜 6. 国防 7. 氣候風景 8. 民族習性

一一七、ソ連の新疆侵攻に関する件

内田外務大臣宛 在モスクワ大使大田、昭和八年一月一三日 第二二号

一二二日の新聞は武装回教徒の動向を報道した。

一一八、ソ連の新疆侵攻説に関する通報

在支那特命全権公使有吉宛 内田外務大臣、昭和八年一月一三日 第七号

附在ソ連大田大使の報告

一一九、新疆の暴動について

陸軍次官宛 在上海武官、昭和八年一月一六日 支第三四号

一四日の支那新聞にモスクワ発「タス」電報を転載し、新疆の回教徒暴動を伝えた。

一二〇、回教徒は暴動説を否認

内田外務大臣宛 在中華民國日本公使館公使有吉明、昭和八年一月一八日 公第二四号

新疆地方における回教徒暴動に関する記事の報告（一月一五日「申報」記事と訳文）

一二一、新疆回教徒暴動説について

拓務次官、内閣書記官、外務次官、関東軍参謀長、関東憲兵司令官、関東州在勤海軍武官、滿鉄資料課長宛  
関東局長、関機高支第二七八五号

一一二、新疆省經濟狀況に關する件

内田外務大臣宛 在南京総領事上村伸一、昭和八年三月三十一日 普通第一九八号

一一三、北平報訳文

昭和八年四月一六日 新疆回民の反乱

(統)